

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 黒崎中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

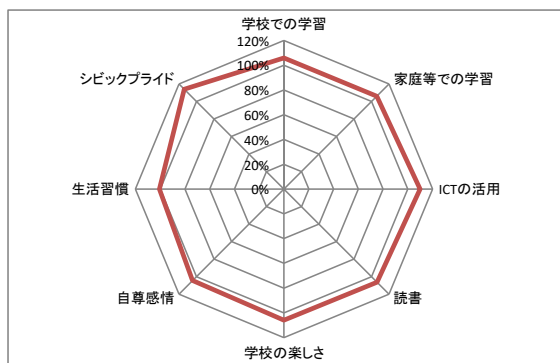
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	評価の観点としての「知識・理解」についてはよくできているが、文章をもとに思考・判断したり別の表現と関連付けたりする点に課題がみられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	漢字や敬語の問題。原因と結果など情報と情報の関係などを理解する問題。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けて考え情報を見つける問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国と比べて、それほど差があるわけではないが、「変化と関係」の領域にやや課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	乗法の計算問題。複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出したことを言葉と数で記述する問題。	
	努力が必要な問題	百分率であらわされた割合の問題。図形の面積比較をし、その結果と理由を記述する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- どの項目においても、全国的な平均値よりも良い結果が出ている。特に、本校児童は、地域に対するシビックプライドが高い傾向にある。
- 学習時におけるICT活用率がとても高く（週3回以上95%）、学校でも家庭でもICT機器を使って学習する児童が多い。
- 「先生はよいところを認めてくれる」97%「学校に行くのが楽しい」94%と学校に対する肯定的な回答が多い。
- 主体的・対話的で深い学びが、今後の児童の学力向上につながる。自分の考えをもち説明し対話する学習ができるように、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業づくりを行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

今後もICTを活用しながら、主体的・対話的で深い学びができるような授業づくりをしていきたい。特に、児童自らが学びに向かうような、教材の開発や提供の仕方を工夫し、児童相互に協力し合いながら問題解決をしていくようにしたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭における平日の学習時間についての回答で、一番多かったのが、全国「1時間以上2時間未満」、本校「30分以上1時間未満」だった。家庭学習の行い方について、通信やHP、懇談会等で啓発していきたい。